



教員免許取得のための介護等体験 ～施設での体験から学生が学ぶもの～



介護等体験において、大学生が感じたこと、学んだことを一部抜粋しご紹介します。令和7年度は、県内198施設、1026名の大学生が介護等体験を行いました。ご協力ありがとうございました。

●施設の方から学んだこと

→介護職員の方々の姿から、「専門性とは、知識や技術だけでなく、人を理解する力そのものである」ということを学んだ。教育も同様に、教科知識を教えるだけではなく、子どもの背景、感情、家庭環境などを理解したうえで関わることが求められる。介護現場に流れていた“人を支える文化”は、まさに教育における“人を育てる文化”と通じており、その根底には共通して「人間への信頼」があると感じた。

→対象はちがえど、教職も介護職も人と人とのつながりが必要不可欠であると学んだ。その場にいる人全員と一対一でコミュニケーションをとることで、少しずつ関係性が築かれていく。また、全体として見るのではなく一人ひとりとして見ることも大切であると学んだ。

→利用者の方とお話した時、「自分でできたということがとても嬉しい」と言われていた。支援とはいっても、付きっきりで何でも手伝うのではなく、時には見守って支援することの大切さを学んだ。

→食べさせる一つの動作についても、様々なことに意識しなければならないことを学んだ。職員の方はゆっくり時間が流れているよ、と言われていたが、私にとっては、一つひとつの動きが意識しなければならないことばかりで、素晴らしいお仕事だなと感じた。

●介護等体験についての感想

→この体験に参加する前は、言葉が返ってこないことはすなわち理解していないことだと考えている部分があった。体験を通して、発語のない利用者であっても、表情や声の出し方、姿勢などによって気持ちを表現したり、返事なくても職員の指示を理解して行動したりしていることを実感した。職員と利用者が築いてきた関係性があるからこそ、利用者それぞれの気持ちの表現方法を理解して対応することができると考えた。

→職員の方や利用者の方とお話をして、施設内の全員が、障害をマイナスではなくプラスに捉えているということが印象的だった。その病気をもったからこそその出会いや受けることのできるサービスがあり、障害も含め自分、個性の一つと教えていただき、そのような素敵な考え方があるのだとハッとした。

→立場としては介護者が支える、利用者の方が支えられる側であるが、利用者の方それぞれが一人の人間であり、これまでの人生があって家族も思いもあることを忘れてはいけないと思った。コミュニケーションを大切にし、その人の考え方や価値観を知ろうとする姿勢、そして尊厳の気持ちを持って関わることの重要さを改めて感じた。これは教員として子どもと関わる時にも同じで、子どもを未熟な存在と捉えるのではなく、一人の人間として尊重し、自立を促す関わりを意識したいと思う。

●介護等体験を通して気づいた自分の今後の課題

→この体験を通して、私は「教員とは、子どもの学びを支える福祉的な存在である」と考えるようになった。今後は、介護等体験で得た“持つ力”“受け入れる姿勢”“尊厳を守る意識”を教育現場で実施し、子ども一人ひとりの可能性を信じて支えられる教員を目指したい。

→介護等体験ではあったが、本体験を通して学んだのは、介護技術以上に「人と人とが関わることの本质」であった。言葉が通じにくい相手であっても、関わりを重ねることで信頼関係は築くことができる。その過程は、教育現場における子どもとの関係づくりと深く重なっている。今後、教育の場においても、1人ひとりの反応や気持ちに目を向け、安心できるコミュニケーションを大切にする教師になりたいと思う。

→介護等体験を通して、支援とはただやってあげるのではなく、その人が持っている力を引き出し主体性を尊重することだと感じた。こうした支援の工夫によって、利用者の方が自信を持って取り組む姿勢や達成感のある表情を見ることができた。支援の方法は一人ひとり異なり全員に同じ関わり方が通用するわけではないため、相手の力を信じながら、状況に応じた柔軟な関わり方ができるようになりたい。

介護等体験は、将来教員を志す学生が、多様な価値観を理解する姿勢を身につけるための重要な学習機会です。利用者の方々との関わりを通して、福祉への理解が深まるだけでなく、相手の立場に寄り添う力や状況に応じたコミュニケーション能力が育まれます。

こうした経験は、子どもたちの成長を支える教員としての基盤形成に大きく寄与し、教室だけでは得られない実践的な学びを学生にもたらしめます。貴施設での体験は学生にとって社会の多様性を実感し、教育者としての視野を広げる貴重な機会となるものと考えております。

令和8年度につきましても受け入れにご協力いただきますようお願い申し上げます。

